

町立
指江図書館

TEL0996-88-6500



「いふことからの上手な休めかた」
著 長谷川洋介

疲れやストレスの正体を知って、自分を大切にいたわる気持ちを取り戻しましょう。

町立
鷹巣図書館

TEL0996-86-1111



「数え方のえほん」
著 高野 紀子

身の回りにある物の数え方が分かる本です。親子で楽しめますよ。

町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中からおすすめのものを選びました。バラエティに富んだ本を紹介します。

Pick Up New publication

長島 文芸

Nagashima Bungai nagashima bungai

長島短歌会

作業終へ焼き芋ほほほり小魚を焼きつつ古い等は昭和を語る
坂之下典子
幼児期に恩を受けしをボランティアにて返すとふ尾島春夫氏の笑顔と涙
中山タマエ
地上はなれ風に吹かるるもみぢ葉は音なくわれを追ひ越してゆく
浜畑 松枝
梅咲ける丘にのぼりて見はるかす天草の島黄砂にかすむ
松元 睦子
デイケアより帰りし家にもみぢ散る部屋温めて嫁は笑みたり
市尾 操
界限は空き家の増すとふ故郷に独りの弟寒の夜に想ふ
岩下 ち江
紫尾山を目線に眺める上場の里古民家で食ふだこ汁旨し
榎平 頼子
分婉の兆せる牛と眼が合ひぬ夜すがら灯す明かりに映えて
米尾 和子

明神俳句会

沖しぐれ白き煙の製塩所
二階堂妙子 護
石路の花咲き継ぐ古墳島日和
白男川孝仁
一湾を二色に分くる片時雨
坂口 静子
天領の川面に映ゆる夕紅葉
山寄加代子
三歳のあるることは冬うらら
関 佳代美
古本屋並ぶ路地裏冬浅し
大 早苗
初時雨黒酢の甕の黒ひかり
脇田 武志
母ひとりけやき火鉢の蓋を開く
大 正弘
小春日や泣いて笑って一周忌
肥後 広行
冬海母の背中船を待つ
二階堂恵子
天草の見え隠れして時雨けり
迫口 君代
暮れなすむ水平線や鶴の竿

創世短歌会

八十年生きて蕎麦食う年の瀬の夜も満室の客を氣遣う
竹之内重信
我よりも若きが三人この里に死せり平成最後の暮に
宮元 司
十月も隣りが入れし百円も賽銭箱に同じ音せり
石原百合子
戸を少しあけて今夜も寝につきぬ家猫帰るそれだけのため
村上 義彦
荒れし沖さして鷗が飛びて行く一羽か二羽は鳴きつつゆけり
野村 益信
とくべつな日にあらずとも渾身の夕映えを見ず日暮の空は
大塚 洋子
寒に入り玉と巻きたる白菜の根元をザクツと鎌の刃に切る
山下 学

一般作品

「短歌」
日が昇る風車羽根にあおがれて民の安全島の繁栄
小林 貢
終の田の土手にひっそり水仙の風に揺れども凜として立つ
小林 如月
つながりし連丹沢の山裾陽をうけてゆつくりゆつくりすぎゆく秋よ
中飯屋辰子
蓮鉢の緋メダカ群れもゆつたりと小春日和は空まで閑
母木 良平
お正月何かふへるや年なるか年はいらぬど仕方たないかな
町田 末則
「俳句」
冬霧の山も街もおおいけり
宗方 清明